



35th Anniversary
純パの会35周年
1982-2017

Pure 純 No.193 Pacific パ Sep.2017

純パの会会報『純パ』第193号

2017年9月30日発行 / 発行:純パの会

優勝の瞬間、ドームは静まり返った

福岡ソフトバンクホークス、2年ぶりの優勝

塚原 隆

台風18号の接近で試合開催が危ぶまれたシルバークイック。59年ぶりの両リーグ同日優勝を期待する声が多かった。でも私は同日優勝なんか期待していない。そんな事態になったらスポーツ新聞の一面はカープに持っていられる。それだけはどうしても避けたいと願っていた。

メットライフドームでのライオンズ対ホークス3連戦はチケット完売。試合開始は14時、私がドームに着いたのは13時を回っていた。

メットライフドームの1塁側外周通路の立見席ではホークスファンが溢れていた。ライトスタンドのビジター応援席の半分を、ライオンズ応援席に設定してしまったからだ。これぞホームチームの成せる技? である。

ライオンズは前回優勝を果たした2008年以降の8年間で5回も相手球団の胴上げシーンを見せつけられている。それは避けたい。それには3連戦3連勝しかない。

東浜巨と野上亮磨の先発。共に初回は無難な立ち上がりだった。

先制したのはライオンズ、山川穂高の17号ソロホームラン。「優勝は明日以降に持ち越しかな……」と思ったが、それもつかの間。4回に柳田悠岐の逆転2ラン、さらに5回には4点を追加。7回にもアルフレド・デスパイネのダメ押し33号。メットライフドームにはホークス優勝の空気が流れはじめてきた。

ホークスは先発の東浜巨が6回を1失点、リバン・モイネロ、岩崎翔と継投し、最後はシーズン最多セーブのデニス・サファテがマウンドに上がった。

ライオンズは最後の粘りを見せた。3本の長短打で2点を取ったが、反撃もここまでだった。最後の打者、エルネスト・メヒアをサードゴロに打ち取り試合終了、ホークスの2年ぶりの優勝の瞬間だ。

優勝が決まったとき、メットライフドームは歓声もなく静まり返った。何か不思議な感じがした。ホークスナインが全員ダッグアウトから飛び出して優勝のこの一瞬を味わっている。ホークスファンもライオンズファンもそれを静かに見守っていた。

やがてマウンド
近辺に輪ができて

工藤公康監督の胴
上げが始まった。

福岡ソフトバン
クホークス18回目

(※)のパ・リーグ
優勝おめでとうご
ざいます!

(※)1リーグ時代
も含めると20回目
のリーグ優勝。



●工藤監督の優勝インタビュー